



自然と利用者同士で会話が弾む

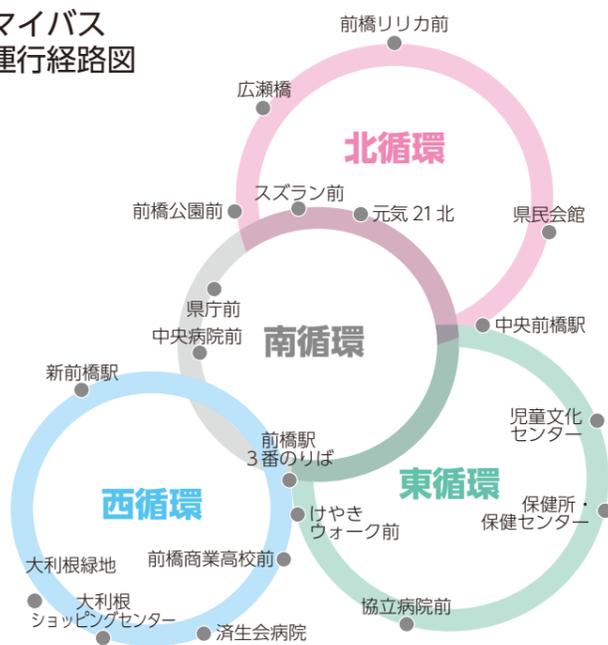


「初対面の人とも気軽に話せますね」と狩野さん



利用者にインタビューする金子さん

マイバス 運行経路図



お得なバスカード

種類	販売価格	利用可能額
一般バスカード	1,000円	1,100円
	3,000円	3,550円
	5,000円	6,050円
敬老バスカード	1,500円	2,200円
	2,250円	3,400円
	3,750円	5,800円
免許返納バスカード	3,750円	5,800円

- 北循環 バス停32カ所
平成14年6月7日運行開始
- 南循環 バス停28カ所
平成14年6月7日運行開始
- 西循環 バス停43カ所
平成19年11月30日運行開始
- 東循環 バス停31カ所
平成19年11月30日運行開始

編集後記

インタビューをした人は皆さん、気持ちよく回答してくれました。高齢化が進む中で、出会った人たちがより良い人生を送っているのには感動しました。マイバスに乗ると、学ばべきものがたくさんあります。病院に行くにも買い物に行くにも、身近にバスがあると若い人も高齢者も生き生きと暮らすことができます。そのことで、商店街も活気つくと思います。移動手段を確保するということは、生活する中で欠かせないものだと思感しました。

「マイバスの停車にエンジンの音止みて小降りとなる雨聞えをり」
 「マイバスの停車にエンジンの音止みて小降りとなる雨聞えをり」
 課題としては、若者の利用者が少

ないということ。若い人は車を運転できるため、公共交通機関を使用する機会が少ないのだと思います。今回の記事で若い人たちにマイバスを知ってほしい。マイバスが、若い人とお年寄りのふれあいの場になってほしいとも思います。マイバスの中であれば誰でもコミュニケーションを取れる暖かい雰囲気を感じられるはず。初めての人もコミュニケーションをとることができると思います。今回の体験乗車でも、初めて会った人が話しかけてくれ、気軽に会話を楽しむことができました。まだ利用した

ことがない人に、ぜひこの優しい空間を体験してほしいです。また、マイバスの醍醐味はなんといっても地元の景色がゆったりと楽しめること。マイバスに乗らなければ分かんかった、新たな発見ができるかもしれせん。このバスの特徴は他にも、全ての人が優しいつくりになっていることが挙げられます。まず1つ目に、乗車する際にバス全体の高さが低くなるので、高齢者をはじめ子どもが乗りやすいということ。2つ目は、座席が低いため、どんな人でも座りやすい。3つ目は、

ほとんどの人が形がさりげなく置かれていたり、川柳が飾られていたりするなど誰もが楽しめる工夫がされていること。マイバスは、地域を回る身近な交通手段であることが魅力の一つ。病院はもちろんのこと、地元に着した施設や商店を循環できるコースが準備されています。そこを巡る中で、マイバスでしか感じられない温かな空間で素敵な人間関係が築かれ、マイバスからつながる人々の元気と活気が前橋の活力へと続くことを期待したいです。

体験乗車をして特徴的だと思ったのは、車体が非常にコンパクトで、座席が向かい合わせだということでした。今まで使用したバスは車体がとても大きく、座席は運転席側を向いていました。マイバスは乗車する人々に自然とコミュニティ空間をつくっているようです。隣同士になった利用者の多くは会話を始め、降車地点まで楽しい時間を過ごしていました。マイバス利用者はリピーターが多いようです。そのため、バスの中で自然と友だちになったという人たちも少なくないと思います。

話を伺いました。北循環で出会った女性は「気軽に乗れるので助かっています。天気の良い日は自転車にありますが、今日のような雨の日は危険。1日1日を楽しいことを見つけて生活しています」と話してくれました。この日は1日乗

車券を使ってお出掛けとのことでした。また、東循環で同席した人は「運転免許証を返上して不便に感じることもありますが、事故の心配がなく安心。敬老バスカードなど割引率の高いバスカードが購入できるので、よく利用しています」と話していました。別の乗客は「東循環のバスのアナウンスは地元の小中学生の声で行われ、かわいらしく新鮮な雰囲気。マイバスを利用するようになったのは最近ですが、利用する回数が増えています」とも。またなかへ買い物に行くという南循環に乗っていた人は「商店のすぐ前で止まり、買い物するのにとても便利です。狭いまちなかを走るので、



楽しく乗って残そう ぶらりマイバスの旅

今回は、マイバスに体験乗車しました。マイバスはいわゆるコミュニティバスで、地域を循環するノンステップ型バスです。このバスは市内を東西南北に循環するので、ちょっとした買い物やお出掛けに便利な交通手段として市民に愛されています。なぜマイバスはこれほど市民に愛されるのか取材しました。担当は市民編集委員 金子侑司・狩野有沙

※地域住民の交通の利便性向上のために自治体などが計画するバス。



問い合わせは 交通政策課 ☎027-8998-5939